

高等学校・地域における日本語指導・支援に関するヒアリング

静岡県立磐田南高等学校

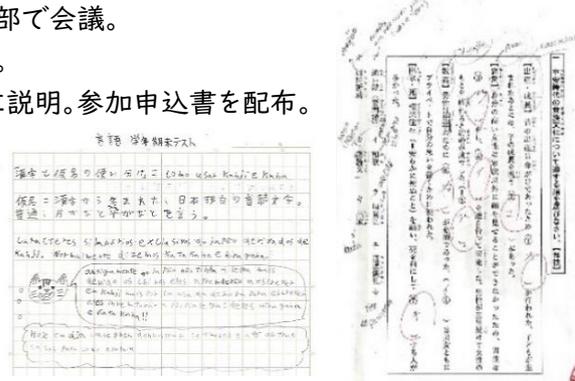
報告者 杉山雅梨華 (教諭)

〈R5年度の取り組み〉

①「0時間目」について

「0時間目」は以上のようなスケジュールで行った。

- 3 月：中学校訪問。生徒の日本語能力や来日時期、保護者などの情報を共有。
- 4 月：入学式で「0時間目」について保護者に説明。  
日本語能力・家庭で使う言語、文書等の翻訳の要否、中学校での別室授業などの調査。  
国語科で小1~6年の漢字レベルチェック。  
※漢字の学習歴を調べ、授業の漢字学習をレベル分け。全校生徒が漢字検定を年1回受験。  
「0時間目」のスケジュールについて国語科と学年部で会議。
- 5 月：授業参観会で「0時間目」について保護者に説明。  
中間テスト後に「0時間目」、JLPTについて生徒に説明。参加申込書を配布。  
中学校訪問。支援が必要な生徒と個別面談。  
「みらいサポート」委託企業との打ち合わせ。  
参加者にプレイスメントテストを行い、  
N5・N4・N3・それ以上のレベルを診断。
- 6 月：「0時間目」スタート ※上級生も同じ時期に。



火曜日 (全員:教員 1 名)	金曜日 (レベル別:教員 4 名)	テスト前 (学年部+教科担当)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科につなげる語彙・漢字学習、小テスト</li> <li>・読解演習</li> <li>・スピーチ、作文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JLPT 対策</li> <li>・JLPT が終わってからは、グループワーク、履歴書練習、部首まとめなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の補習</li> <li>語彙調べ、ノートまとめ、対策プリントに書き込みなど</li> </ul>
〈教材〉 「JSL 中学高校生のための教科につなげる学習語彙・漢字ドリル」(ココ出版)、 「日本語学習者のための読解厳選テーマ25+10[初中級]」(凡人社)	〈教材〉 「合格できる日本語能力試験」(アルク)、 「日本語総まとめ」(アスク)、 「にほんごチャレンジ[かんじ][文法と読む練習]」(アスク)、 公式問題集、模擬問題集ほか	〈教材〉 ・各教科のテスト対策プリント、提出課題など

- 8 月：夏休み補習 4 日間。聴解。模擬問題。最後の 1 回で JLPT 申込。※ 団体申し込みの個人申込集約方式
- 12 月：JLPT 受験。
- 2 月：今年度のまとめと振り返り。職員会議で報告。

R5 年度、火曜日は全員で教科につなげる語彙・漢字の学習を毎時間行った。それぞれの言語の訳がついたものを使用し、単作文で実際に活用場面を考えさせた。読解演習では、国語科のテストの問題形式の答え方、目の付け所を丁寧に確認した。特に以下については、繰り返し練習した。

- ・代名詞の説明：「それ」、「そこ」は何ですか。○字で書きなさい。
- ・接続表現を探す：○○とありますが、それはどうしてですか。どういう順番で、○○をしますか。
- ・敬体から常体への書き換え：筆者の考えを二つまとめて書きなさい。
- ・問いに合うように文末を調整すること：「○○こと」、「△△から」に合うように書きなさい。

作文は、最初に主要な語を調べた後は AI 翻訳を使わない時間を設け、日本語で考えて書く時間と分けた。また、日本語学習者の作文によくある誤りを共有し、動詞や形容詞の活用、助詞、係り受け、長すぎる文、常体⇄敬体のミスに自分で気がつき修正できるよう練習した。「翻訳に頼りにしすぎない」

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット (ユニットC)  
 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」事業  
 「書いたままにしない」ことの意識づけを行った。

②国語科の授業の取り組み

1年		2年		3年		4年
現代の国語☆ 2単位×2クラス	言語文化☆ 2単位×2クラス	国語表現☆ 2単位×2クラス	言語文化演習 2単位×2クラス	国語表現 2単位×2クラス	文学国語 2単位×1クラス	文学国語 2単位×1クラス

☆は外国語支援員の入り込み

1) 自分の意見を伝えるために説得力のある文章を書こう。(【知技】(2)オ【思判表】Bア)

大修館『新編 現代の国語』「7 説得力を高める 反対意見を想定した意見文を書こう」

Step0 接続表現、係り受け、原稿用紙の使い方の復習。

Step1 意見文の型を知る。モデル文から構成メモをつくる。

Step2 中学生がスマホをもつメリット・デメリットを  
付箋アプリでグループで共有。

構成メモをつくる (第一段落：問題提起+意見→第二段落：理由①②→第三段落：反対意見→第四段落：意見の補強→第五段落：意見の確認 ※常体)

Step3 「中学生にスマホは必要か」をテーマに意見文を書く。グループで推敲。オンライン提出。

スマホは中学生に必要か。私が必要だと思う。  
 なぜなら、かんたんに調べられることのできるし、GPSや翻訳を使うこともできるからだ。また、友だちと連絡をとれるし調べ学習に便利だ。  
 たしかに、ゲームやYouTubeにずっとおて勉強をやらない人と休み時間で遊びに行かない人が多くなるし依存症になってしまうからだ。  
 しかし、きちんとやって、授業で分からなかったところを勉強したり調べたりするのに使う人もいる。例えば、私は国語の授業では翻訳のためにスマホを使っている。  
 したがって、スマホは中学生に必要だともういます。(ブラジル籍 男子 N4)

中学生にスマホは必要か。私は中学生にスマホは必要ないと思う。  
 なぜなら、休み時間や昼休みに友達やクラスメイトと関わる時間が増えるし、人間関係が良くなるからだ。また、スマホがなければ授業に集中しやすくなるはずだ。  
 たしかに、スマホがあれば困った時や危険な状況にあったときに、警察や家族、友達に連絡がとれる。  
 しかし、スマホをもっていると学校で写真をとったり、学校外で写真をとることで、個人情報がいってしまうかもしれない。また、授業中スマホをつかう人がでてきたり、休み時間がうろさくすることがある。  
 したがって、私は中学生にスマホは必要ないと考える。(フィリピン籍 女子 N3)

→モデルとなる文章から逆向きに構成メモをつくるという活動を踏まえることにより、別のテーマで自分が書く時の発想の仕方を理解させた。ゼロの状態から意見文を書き出せない生徒のために、メリット・デメリットをグループ→クラスで共有する時間を設けた。メモはワークシートに手書きで、清書はオンラインにし、書く時間の差やAI 翻訳からの貼り付けに考慮した。

2) 効果的なプレゼンテーションで提案しよう。(【知技】(1)カ【思判表】Aウ)

大修館『新編 現代の国語』「9 他者を動かす プレゼンテーションをしよう」

Step1 モデルとなるプレゼンテーション動画を見て、よい点や工夫を挙げる。プレゼンテーションの目的と型を知る。スライドづくりのコツを知る。

Step2 見づらいスライドがどうしたら見やすくなるか考えて直す。

(文字の色や大きさ、情報量、口頭の説明とスライドの関連性、アニメーションなど)

「日本の魅力を外国人観光客に伝えよう」をテーマにスライド・原稿をつくる (4分)。

Step3 プレゼンテーションをグループで発表、評価。修正してオンライン提出。



東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット (ユニットC)  
文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」事業

(5枚目)

2つ目は日本の交通機関が優秀というところですか。日本の交通機関は世界全体に見たらとても優秀です。日本の交通機関は時間通りに来たり、電車内やホームも綺麗に整備されています。万が一、電車が少しでも遅れていたらきちんと謝るのも日本の良いところ。また、電車内では、静かにするという暗黙の了解も日本特有のもので。そして、海外での交通機関は遅れは当たり前、ホームや電車内は汚かったり、うるさかったりします。日本人が海外の電車に乗ったら発狂しそうですね。(ブラジル籍 女子 N2)

→普段は日本語能力の自信のなさから積極的ではない生徒が、写真や複数の色を使ってきれいにスライドを仕上げ、口頭での説明もルビをふって準備していた。日本人生徒の発表を聞いて、食べたことのないもの、行ったことがない県のことを知れたのも面白かったようだ。スライドを2言語を併記してつくった生徒もいたが、外国語で参加できる場面づくりも重要である(学校説明会のポスター、『枕草子』の外国語訳など)。

### 3) 日本文化について具体例をもとに考えよう。(【知技】(2)ア【思判表】Bオ)

大修館『新編 言語文化』デービッド・アトキンソン「足し算の文化」

Step0 海外向けの「日本文化」をまとめた動画を視聴。

アイデアを共有するアプリで「日本文化」と聞いて思いつくものを挙げさせる。

Step1 本文を読む。要約の穴埋め(=リライト本文)。漢字。語句調べ。

Step2 段落ごと、具体例を表にまとめる、○×問題、問いに答えるなど。

Step3 作文課題(第一段落:筆者が述べていたことをまとめる→第二段落:自分の意見を書く)。ワークシートに書いて一度提出。教員の添削をもとに推敲して、オンライン提出。

筆者は、日本文化を「足し算の文化」だと述べています。「足し算の文化」とは新技術と古いものを足していく文化のことです。例えば、カレーはインド発祥で、後にイギリスがアレンジしたものだが、やはり日本のアレンジがなんとも際立っていた。「新しいものをとり入れて自分たちのものにする」の完璧な例です。

私は日本文化についてきょうみぶかいですばらしいと思います。主に日本で知られていることが他国のものだと知っておもしろいと思います。例えば、「カブコン」というゲーム会社がありますが、自分にとって彼らは西洋のゲームで知られています。しかし、もともと彼らのゲームのほとんどはここ日本で生まれました。国ごとのアレンジではありませんが、この国がいかにかうまく適応しているかを示しています。それ以外に、日本の文化は一般的にとってもクールで、それ以上のものがあります。現代性であろうと伝統主義であろうと、日本はその両方のバランスをとるのが上手いです。(フィリピン籍 男子 N4)

→[読むこと]の授業では、総ルビ本文の配布後に要約の穴埋めを行い、本文のキーワードを確認する。必要な生徒には要約を翻訳させる。ワークシートで段落ごと内容を整理し、テストの問題形式の問いに答える。作文は、「日本文化」についての自由記述ではなく、段落内容を指示し、書き出せない生徒にはモデル文を提示した。上記の生徒は、前半は型にそって日本語で書き、後半は英語で書いたものをGoogle翻訳で日本語にした。

### (4) 漢詩を自分のこととむすびつけて鑑賞しよう。(【知技】(2)イウ【思判表】Bウ)

大修館『新編 言語文化』「詩歌の調べ」

Step0 書き下し文の復習。

Step1 動画で漢詩のきまり、日本人と漢詩の関わりを知る。

Step2 音読しながらリズムを味わう。語句、句形、現代語訳を確認する。

あらすじをまとめ、内容解釈に関する問題を解く。

Step3 漢詩を一つ選んで鑑賞文を書く。鑑賞文を相互に読み合う。修正してオンライン提出。

A「春暁」を選択 作者の気持ちは春に感じることで伝えようとしています。気持ちだけでなく春の経に読者にシ

2024年3月16日

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット (ユニットC)

文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」事業

エアをしています。だから、この漢詩は作者の気持ちをちゃんと感じます。私はこの漢詩を読んで美しいと思います。この詩ちゃんと整えてリズムを感じます。私は漢詩読んでいる時に、作者の気持ちを強すぎてインスピレーションを受けてしました。(フィリピン籍 女子 N4)

B「静夜思」を選択 内容は平和な夜についてです。作者がこどくをつたえたかった場所で、かれだけがいるよるとふるさを思わせる月の明るさでひょうげんしました。しずかな夜に月を見ると、ブラジルにいる家族や亡くなったしんせきのことなど、いろいろなことをかんがえさせられます。そして、それはわたしによいかんじ、しずけさをもたらします。(ブラジル籍 女子 N5)

→書き下し文は言語の仕組みについて考えさせるきっかけとして全員に取り組みせている。動画で中国語の漢詩の音読を聞くと、押韻や対句を体感として理解できる。漢詩は短いため、他の漢文教材よりも取り組みやすい。「面白かった」「感動した」などの感想ではなく、作者の意図や心情、表現技法の効果などを意識した鑑賞文のために、Aの生徒には「作者は～を伝えようとしています」「私はこの漢詩を読んで～」といった型を提示した。Bの生徒はポルトガル語で書いたものをGoogle翻訳で日本語にした。